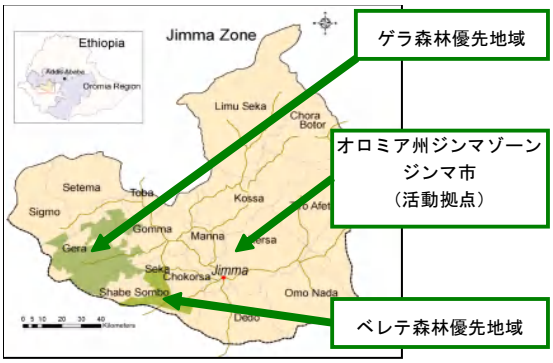
WaBuB PFM News

～Respect Local People's Knowledge for Sustainable Forest Management～

JICA 技術協力プロジェクト

エチオピア　ベレテ･ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2

2007年11月30日発行 （第 11&12合併号）



WaBuB の生計向上活動が始まりました！

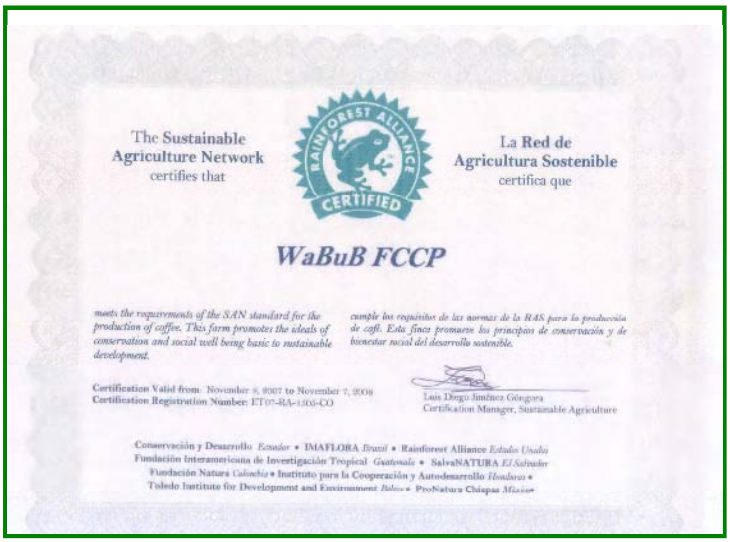
ようやく乾期に入り、ベレテ･ゲラの空は連日、晴れ渡っています。いよいよ WaBuB の生計向上活動の柱、森林コーヒー認証や WaBuB フィールド･スクールの活動が動き出し、我々も連日のように対象集落をまわる日々です。何事も最初が肝心。新たな取り組みを始めた村や普及員がスムーズに活動の軌道にのれるよう、時には尻を叩きつつ WaBuB を応援していきます。少しご無沙汰してしまいましたが、この2ヶ月間のプロジェクトの出来事を合併号としてご紹介します。

ベレテ･ゲラ NOW　～森林コーヒーの認証を取得しました！！ ～

これまでの WaBuB PFM News でもお知らせしたように、プロジェクトでは「森林管理と生計向上」の両立を目指して、森林コーヒーの認証とマーケティング･サポートを行なう活動をすすめていました。8～9 月にかけては、認証審査に向けたトレーニングの実施や、メンバーの登録とコーヒー森の踏査、収穫量の見積もりといった、認証に向けた準備を行ってきました。(WaBuB PFM News 9,10 号参照)

10 月 17～23 日にかけて、Rainforest Alliance の審査官による認証審査が行われました。4日間にわたるゲラ森林（WaBuB アファロ、グラ）、及び2日間のベレテ森林（WaBuB チャフェ、メティ）においての審査では、毎日5名ほどの農民に対し、コーヒーの生産･管理方法についてのインタビューや、日々の生活における問題点に関する質問、また、メンバーが所有する森林コーヒーエリアの踏査も行なわれました。ベレテ･ゲラの豊かな自然と素朴な人々の生活の営みは、中米のコスタリカから派遣された審査官にも、非常に良い印象を与えたようです。そして、11 月 14 日に Rainforest Alliance より「WaBuB の森林コーヒーに認証を授与する決定を行なった」との連絡が入りました。WaBuB コーヒー認証実行委員会、そして登録を行なった WaBuB メンバーと喜びを分かち合いました。

WaBuB へ発行された Rainforest Alliance 認証証書


The Sustainable Agriculture Network
certifies that

RAINFOREST ALLIANCE CERTIFIED

La Red de Agricultura Sostenible
certifica que

WaBuB FCCP

meets the requirements of the SAN standard for the production of coffee. This farm promotes the ideals of conservation and social well being basic to sustainable development.

cumple los requisitos de las normas de la RAS para la producción de café. Esta finca promueve los principios de conservación y de bienestar social del desarrollo sostenible.

Certification Valid from: November 8, 2007 to November 7, 2008
Certification Registration Number: LT07-RA-1503-CO

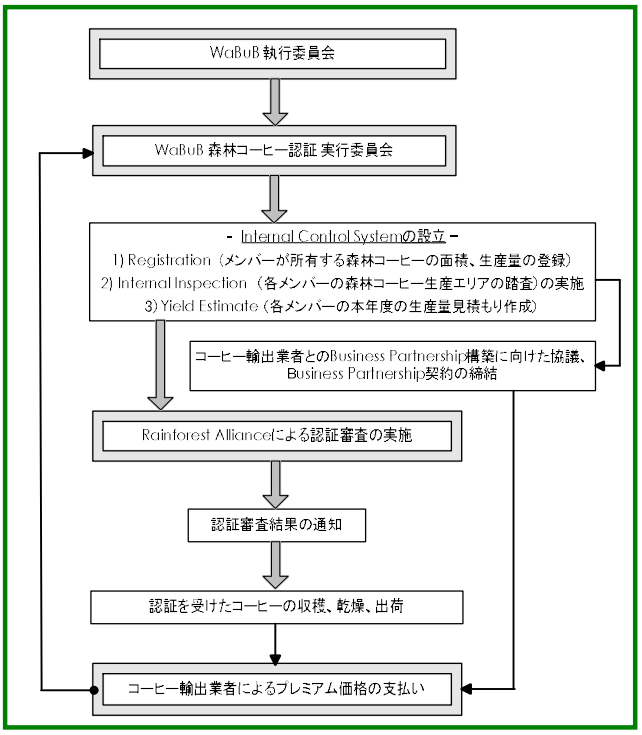
Luis Diego Jiménez Góngora
Certification Manager, Sustainable Agriculture

Conservación y Desarrollo Ecuador • IMAFLORA Brazil • Rainforest Alliance Estados Unidos
Fundación Interamericana de Investigación Tropical Guatemala • SalvaNATURA El Salvador
Fundación Natura Colombia • Instituto para la Cooperación y Autodesarrollo Honduras •
Toledo Institute for Development and Environment Belize • ProNatura Chiapas México

認証審査を受けるまでの流れ

WaBuB のメンバーが生産する森林コーヒーが認証を得るためには、次に示すようなさまざまな準備を行い、Rainforest Alliance の認証審査官による審査を受けなければいけません。認証審査を得るための活動を始めるには、ベレテ･ゲラ森林優先地域内の対象集落で WaBuB を組織化し、森林管理仮契約を締結することを前提条件としています。その後、組織化された WaBuB 執行委員会の傘下に、「WaBuB 森林コーヒー認証実行委員会」を設立し、同委員会が認証審査に向けたさまざまな準備を行っていきます。

主な活動の流れは、1) WaBuB メンバーの中から森林コーヒー認証活動に参加を希望する住民の登録（所有する森林コーヒーエリアの面積や収穫量、化学肥料の使用有無といった生産方法の明記）, 2) 委員会による登録をした農民の森林コーヒーエリアの踏査、3) 本年度のコーヒー生産量の見積もり、4) 1)~3)の結果をとりまとめ、認証審査に向けた必要書類の準備、5) Rainforest Alliance に



認証審査の実施

よる認証審査の実施となります。村落開発普及員やプロジェクトが適宜サポートしながら、以上の流れに沿って活動を行なっていきますが、基本的には WaBuB コーヒー認証実行委員会のメンバーが中心となって、登録や森林踏査を実施します。

コーヒー輸出業者とのビジネス・パートナーシップ契約の締結

認証を得た森林コーヒーでも「売り先」が確保されなければ、プレミアム価格を得ることもできず、これまでどおり、地元の市場で売却するしかありません。そこでプロジェクトでは、首都アディス・アベバのコーヒー輸出業者と WaBuB との間での、認証を受けた森林コーヒーの売買に関する、ビジネス・パートナーシップの構築に向けたサポートを行なっています。WaBuB メンバーには、認証を受けた森林コーヒーを直接輸出業者に売却することにより、市場価格に対して 15～25%のプレミアム価格が支払われることになり、また輸出業者も、近年、欧米やヨーロッパで需要が高まる Rainforest Alliance 認証コーヒー、そして「森林コーヒー」として希少価値のあるコーヒーを確保することができ、Win-Win の関係を築くことができます。

天日乾燥される認証を受けた森林コーヒー（アファロ）

現在、コーヒー輸出業者２社（ゲラ森林、ベレテ森林それぞれ１社）と WaBuB がビジネス・パートナーシップ契約を締結してコーヒーの収穫、乾燥、出荷といった一連のプロセスを共同で実施していくための準備を行っています。

ベレテ・ゲラの有用樹種

Bamboo

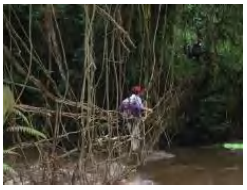
アフリカに竹があるの？と思うかもしれませんが、世界に約600種あると言われている竹のうち、３種がアフリカ起源とされています。その中の2種は、エチオピアの主に南西部の高地に自生しています。標高1,100-1,700mには、Lowland Bamboo (*Oxytenanthera abyssinica*)と呼ばれる比較的太い竹が分布し、エチオピア南部のアルバミンチ近郊では、この竹を使って見事な織り機を作っている村もあります。ゲラ森林の標高の高い地域（2,200m以上）に分布するのがHighland Bamboo (*Arundinaria alpine*)という名の細い竹で、ある調査によるとエチオピア全体の約4分の1に相当する36,000haがゲラ森林の高地に自生しているようです。

竹製の織り機

日本の竹は地下茎で増え、大きなタケノコができますが、アフリカの竹は1つの株から何本もの竹が生え、地下の部分に小さなタケノコができます。ケニアではそれも食されているようですが、ベレテ・ゲラでは聞いたことがありません。また、マットやバスケットのような竹製品もあまり見かけられず、竹資源がほとんど使われていないのが実情です。コーヒーが育たない高地では、こうした竹の利用による生計向上の可能性が考えられそうです。

グラ集落での境界線画定作業

すでに森林コーヒー認証の作業が始まっているゲラ森林グラ・アファロ村のグラ集落において、進捗が遅れているWaBuB組織化の作業（ステップ7：境界線の確定、第7号参照）をサポートするため、９月３日から3泊４日でグラ集落に行きました。


ナソ川にかかる橋を渡る

グラ集落までたどり着くには、まずジンマからアファロ集落まで車で3時間半。そこからは約8キロの山道を2時間以上かけて歩きます。カウンターパート3名に加え、アファロ集落で人夫を雇い、テントや水を手分けして運びます。アップダウンはかなり急ですが、うっそうとした森の中を歩いていると日本で登山をしているような錯覚に陥ります。また、途中にはグラ集落の人たちが木の蔓で作った橋があり、ナソ川の濁流を真下に見ながらおっかなびっくり渡ります。日本では味わえないスリルです。

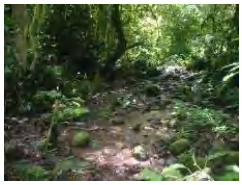
広大な森に囲まれたグラ集落

ようやくグラ集落に近づくと、ぱっと視界が開けます。広大な森に囲まれて約１３０世帯が農耕やコーヒーの収穫を営みながら暮らしています。どうしてこんな森の奥地に人が住むようになったのだろう…と思いを馳せずにいられません。集落の中には小さな小学校があり、ちょうどエチオピア歴の正月前で休みに入っていたので、校舎の中にテントを張らせてもらい宿としました。

翌朝から、早速、境界線確定作業を始めます。集落の長老に聞いてみると、隣村との境界（川や大きな岩）は主に6か所あり、どれも片道3～4時間はかかると言います。本来は境界に沿って GPS で位置を記録しながら確定作業を行うのですが、ここでは境界にたどり着くだけで精一杯です。コーヒー林の踏査作業も合わせて行うため、3つのグループに分かれて境界を目指します。雨期の山道（と言っても、道は無きに等しい）はかなりぬかるんでおり、泥に足をとられて相当の労力を消耗します。軟弱な我々は馬（もちろん調教などされていない）を借りて向かいます。それでも、鬱蒼とした森の中では、馬に跨りながら枝や幹を避けなければならず気が気でありません。

鬱蒼とした森を馬で進む

途中に広がる森は、これが本当にアフリカなの？と疑うような見事なものです。苔むした大木が聳え立ち、いつからそこに生えているのか予想もつかない天然コーヒーが続きます。一見、かつて訪れた屋久島の森に劣らない荘厳とした雰囲気を醸し出しており、改めてベレテ・ゲラの森の価値を認識させられました。ようやく辿り着いた境界では、静かに小川が流れ、しばしの安らぎをもたらしてくれました。


隣村との境界には清らかな小川が流れる

タイ RECOFTC での研修に参加しました！

WaBuB 支援体制強化の一環として、タイにある Regional Community Forestry Training Center for Asia and Pacific (RECOFTC)という社会林業の訓練や調査を行う国際機関での研修に、郡の行政官（森林官）3 名と共に参加しました（9 月 17～29 日）。

これからの WaBuB 普及活動に先立ち、どのように住民のニーズ・多様性に応じた森林管理の計画作りや実施を行えばいいのか…。そのヒントと方法を習得することが、主な目的でした。研修には演習や事例分析が多く取り入れられ、実際のベレテ・ゲラの状況を「森に関わる人々の影響度合い」、「生計手段の状況」、「紛争の可能性」といった様々な視点から分析し、その結果を管理計画や運営に盛り込むための留意点を学びました。

特にジェンダー（男性と女性の役割や権利）に関する分析では、ベレテ・ゲラでは女性が極度に家庭の中のみの活動に従事していることが多く、公の会議や意思決定の場に出席したり発言をすることが少ない他、商品価値の高い作物や家畜を売ったりする金銭管理も男性の権利とされており、日常の農作業など生計活動などで重要な役割を担っている女性の声や意思が反映されにくい文化および社会状況であることが浮き彫りになりました。女性の参加や権利に対する意識を変えていくことも今後の課題です。

コーヒーを焙煎するカレン族の女性たち

また、3日間のフィールド視察ではタイ北部の国立公園（森林保護地域）を訪れ、周辺住民や公園関係者、NGO などから話を聞きました。住民を主体とした森林管理組合を組織し、森林利用に関わる契約書を取り交わし、森林利用の境界を明確にするための地図を作成するなど、ベレテ・ゲラの活動とも共通する点が多く、具体的な議論ができました。中でも、訪問したカレン族の村では、生計活動手段として最近になって栽培を始めたコーヒーを自分たちで加工・販売をしている他、ホームページまで運営している活発さには驚かされました。他にも、これまで森で採集していた薬草などの植物の栽培実験を行ったり、ログキャビンを村の中に作ってエコツーリストを積極的に受け入れるなど、変遷しつつある村の状況を誇らしく、生き生きと紹介する姿が印象的でした。

薬草の栽培試験地を誇らしげに説明する篤林家

今後、これら研修で学んだ分析手法や事例を WaBuB の森林管理計画や生計状況分析などに取り入れ、より実効性および継続性の高い活動の展開に活用していきたいと考えています。

ベレテ・ゲラでの新人研修を終えて

JICA 新入職員研修として、9 月末から約 1 ヶ月間、本プロジェクトでお世話になりました会沢栄志です。研修期間中は、Farmer Field School（FFS）の取り組みで行っているワークショップ、森林コーヒー認証に向けた資料作成・認証審査への同行などといった業務に携わりました。これまで JICA 事務所にて、紙面を通してプロジェクトの概要を把握する機会はありましたが、今回は私にとって生で見る初めてのプロジェクト。実際に見て学んだこと・感じたことはとても多かったです。

例として 1 つをご紹介すると、プロジェクト・サイトでは普段想像もつかない問題が潜んでいることをこの研修期間で感じました。コーヒー認証へ向けて私は各村で収穫されるコーヒーの量を記録する業務を行いましたが、そこで用いられているクンターレという単位が村によって異なることが後日発覚しました。1 クンターレ＝68kg（アファロ集落）、51kg（メティ集落）といったように。他にも人名の綴りが言語（アムハラ語、オロミア語、英語）によって変わるなど意外に感じる様々なことがあり、プロジェクト・サイトならではの業務の難しさを垣間見ることができました。

研修期間中はお腹を壊すなどのトラブルもありましたが、周囲の方々に支えられたおかげで、苦労したことを含めとても貴重な経験ができました。今回実際にプロジェクトを通して感じたこと・学んだことを、今後の仕事へきちんと活かしていくことがこれからの私の課題だと考えています。

（エチオピア事務所　会沢栄志）

ベレテ・ゲラ NOW　～プロジェクト進捗状況 ～

いよいよ普及活動が始まり、各村での普及員による WaBuB の組織化と生計向上活動（森林コーヒー認証と WaBuB Field School: WFS）が並行して進められています。現時点での進捗を整理してみました。

＜WaBuB＞ベレテ・ゲラ森林内に位置し、普及員が配置されている合計41の村で、集落を単位とした WaBuB 組織化が進められています。現時点でほぼ全ての WaBuB がステップ6（第7号参照）までを終えており、来年3月までに森林管理仮契約の締結まで至ることを目標としています。

<WFS>全ての普及員が1つの WFS を始めることを目標に、10 月より毎週のセッションを1年間（52週）実施します。現時点で64のグループが結成され、2048人の住民（各グループ男女各16名）が参加しています。3月には各グループから2名の農民を WFS ファシリテーターとして訓練し、グループの数がネズミ算的に増えるよう仕掛けます。

<森林コーヒー認証＞今年はパイロットとして3集落で、認証を取得しました。登録者数は居住者と季節利用者を合わせて、全体で556人に至りました。来年は、今年 WaBuB を結成した41の集落の中、森林コーヒーを有する全ての村を対象に拡げていく予定です。

WaBuB は、現地オロモ語で（地域住民により組織される）森林管理組合の略称、PFM(Participatory Forest Management)は参加型森林管理の略称です。よって、WaBuB PFM は、本プロジェクトが確立・普及を目指す WaBuB による参加型森林管理方法を意味します。

～ 農民の学校　WaBuB Field School が始まりました！！ ～

普及員を対象とした WFS 研修（第10号参照）を終えた後、いよいよ WFS が各集落で始まるのに先立ち、各グループの代表者（約130名）に集まってもらいオリエンテーションを実施しました。ここでは、WFS の簡単な流れについて説明し、楽しみながら学ぶための手拍子や体操を紹介しました。また、1年間かけて使用する紙やペンなどの文房具を配り、責任を持って管理する旨の契約書を交わしました。皆、楽しそうに参加してくれ、何か面白い学校が始まりそうだ…という印象を持ってもらえたようです。

体操を楽しむ村人達

WFS がどの曜日に実施されているかは、各グループによって様々です。プロジェクトや郡の森林官が分担してまわっていますが、中には歩いて4～5時間かかる村もあり、全ての WFS（64グループ）をまわるのは、なかなか容易ではありません。まずは毎週1つを目標に、各 WFS の様子をご報告していきたいと思っています。

～サディ・チャウラ集落　アハメド普及員の WFS～

サディ・チャウラ集落が位置するサディ・ロヤ村には3名の普及員が配属され、各自が WFS を結成して計3つの WFS が進行中です。その1つ、アハメド普及員の WFS は毎週土曜日に行われ、7週目に入っていました。

朝9時の開始前から、長椅子を手にしながら、続々と住民が集まってきます。聞いてみると、「300世帯もの住民を有する集落から選ばれた32名のメンバーは、まさに集落の代表者であり、責任を持って1年間の WFS に出席すべきである」と住民間で話し合い、遅刻や無断欠席をしたメンバーには罰金を科すような決まりにしたそうです。普及員が強制するのは問題がありますが、このような住民の意思決定は尊重していきたいと思います。

お祈りと点呼の後、本日の主なテーマの1つである「WFS を実施する場所」について協議します。トークボール（第10号参照）を使い、ボールを受けたメンバーが順に希望を述べていきます。すんなりと農地の一角に設けることで決定した後、次回までにどのサブグループ（32人のメンバーは8人1組の4つのサブグループに分けられている）がイス、屋根、黒板用のボードに必要な材料を準備するか、クジ引きで決定しました。

ニセバナナの葉で作られたトークボール

次に、もう1つの主なテーマである「苗畑についての関心」をサブグループで話し合います。WFS では野菜や作物、果物などについて比較試験を行い、観察や分析による「気づき」を通した学習をねらいとしていますが、乾期の今の時期は農作物の栽培に適さないため、まずは「苗畑作りと苗木栽培を通した比較試験（種の蒔き方の違いによる発芽率の違いなど）」から行い、今後の他の試験への準備にすることにしています。そこで、苗畑を始めるにあたり、どの木の苗を栽培したいか？苗畑を通してどのようなことを学びたいか？といった事柄について、サブグループ毎に出された意見を発表してもらい、その中からグループ全体としての優先度を話し合って決めました。

苗畑で学びたいことについてサブグループ毎に発表

このグループでは、アボカド、コーヒー、セスバニア（マメ科樹種）、そしてグレビレア（飼料用など多目的樹種）の苗木を育てることに決まり、特に果物等の病虫害について高い関心が示されました。今後、通常の比較試験に加え、特別トピックとして病虫害等に関する講義を取り入れていきます。

～サディ・チャウラ集落　バイサ普及員の WFS～

翌日曜日、アハメド普及員の奥さんであるバイサ普及員の WFS では、8週目のセッションが行われていました。

すでに8時半からメンバーの全員が集まり、先週決めた WFS の実施場所に、ベンチや屋根のための木組みを協力して組み立てます。ほんの 20 分ほどで、屋根付きの立派な教室が完成しました。女性陣が最前列の席を我先に陣取り、得意気な笑みを見せていました。

立派な教室のできあがり！

出来たての教室で、早速 WFS が始まります。バイサ普及員の説明の後、メンバーが用意したバケツと小石を使ってゲームを始めます。大きさの異なる 4 つのバケツに石を投げ入れるのを競い、「このように大きさ（土壌の質や日当たり等の例え）の異なる条件で比較を行い、正確な結果が得られますか？比較試験は同じ大きさのバケツで行いましょう」という留意事項を体感してもらいました。

バケツへの石投げゲーム

ゲームの後、今週の主なテーマである「苗畑のレイアウト」をサブグループ毎にデザインします。どこに水場があり、どこに苗床を作ったら効率的か？苗畑に必要な土や砂はどこに積むか？ポットはどの方向へどのような配列で置くか？メンバー間のアイデアをまとめます。どのサブグループにも読み書きのできるメンバーを 1～2 人ずつ入れるようにしていますが、読み書きのできない女性達も、真剣な面持ちで意見を述べているのが印象的でした。また、どのサブグループも定規を使ってきれいなレイアウトを仕上げているのには驚きました。WFS を通じて、このメンバーがどう変わっていくのか本当に楽しみです。

定規を使ってきれいにレイアウトを作成します

次週からは、いよいよ苗畑作りに入ります。

発行元：ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ 2　ニュースレターやプロジェクトへのご意見・ご感想もお待ちいたしております。
E-mail: belete-gera@ethionet.et（担当：西村、吉倉）　URL: http://project.jica.go.jp/ethiopia/0604584/